

デング熱

昨年、70年ぶりの国内感染が確認されたデング熱ですが、それ以降、次々に感染者が発見されています。デング熱は、世界で年間約1億人の患者が発生している疾患であり、熱帯地域では珍しくない感染症ですので、交通手段が発達している現代では、いつ日本に入ってきてもおかしくないと思われていました。

デング熱とは

2014年(昨年)の夏季に、輸入症例により持ち込まれたと考えられるウイルスにより150例以上の国内流行が発生しました。埼玉県では2014年は14例の報告がありました。2015年第1週からの報告数は2例あります。少々専門的な話になりますが、デング熱とは、ネッタイシマカなどの蚊によって媒介されるデングウイルスの感染症です。

デングウイルスは、日本脳炎ウイルスと同じフラビウイルス科に属するウイルスで、やはり**蚊**(ネッタイシマカ、ヒトスジシマカ)によって媒介され、4つの血清型(1型、2型、3型、4型)に分類されます。

デングウイルス感染症が多数みられるのは、媒介する蚊の存在する熱帯・亜熱帯地域、特に東南アジア、南アジア、中南米、カリブ海諸国ですが、アフリカ・オーストラリア・中国・台湾においても発生しています。全世界では年間約1億人がデング熱を発症し、約25万人がデング出血熱を発症すると推定されています。

感染症法施行後の患者届出数は、1999年(1~3月)9症例、2000年18症例であり、2010年には初めて年間200例を超えています。年度ごとの変動は、流行地への海外渡航者数、日本人旅行者のよく行く流行地でのデング熱の流行状況と関係しているようです。

デングウイルスは、**ヒト⇒蚊⇒ヒト**の感染環が考えられていますので、現在、確認されている段階ではウイルスの増幅動物は存在していません。

今年も蚊が発生する季節になってきました。まずは、蚊に刺されないように心がけましょう。デング熱に限らず、世界には蚊が媒介する感染症がたくさんあります。うがいや手洗いの生活習慣と同じで、日頃から「蚊に刺されないような生活習慣」がキーワードになると考えます。